

練学歯だより

No.21

練馬区学校歯科医会広報

2016年3月発行

目次

- p.1…… ご挨拶
練馬区学校歯科医会会長 草柳 英二
- p.2…… 練馬区長を表敬訪問 河奈 文彦
- p.3…… 特別支援学級におけるアンケート調査の報告
～お口の健康と食習慣について～
練馬区学校歯科医会学術委員会
- p.7…… 第79回 全国学校歯科保健研究大会
都立田柄高等学校 水野 重美
- p.9…… 第66回関東甲信越静学校保健大会に参加して
富士見台小学校 蓮池 敏明
- p.10…… 平成27年度練馬区立小学校長・中学校長との
研修協議会 名古屋昌宏 草柳 英二
- p.11…… 新入会員の声
練馬区立光が丘夏の雲小学校 本田美知子
練馬区立八坂小学校 松本 大輔
練馬区立北大泉幼稚園 安田智恵子
練馬区立豊玉南小学校 阪本 栄一
練馬区立石神井西中学校 羅 均
練馬区立大泉学園中学校 安藤 泰敬
練馬区立石神井中学校 宮本 一世
練馬区立向山小学校 結城 洋仁
練馬区立大泉第二中学校 安齋ちあき
練馬区立大泉北小学校 田中 俊三
練馬区立谷原中学校 竹之内大助

会長挨拶

練馬区学校歯科医会会長 草柳 英二

私は、平成27年4月1日より練馬区学校歯科医会の会長職を拝命いたしました草柳英二と申します。今後どうぞよろしくお願い申し上げます。

練馬区学校歯科医会は、昭和30年4月に練馬区歯科医師会から独立し、第1回目の定時総会が開催されたのが始まりであると練馬区歯科医師会50年史に記載されております。発足後、練馬区内の児童・生徒の歯と口の健康のために幾多の事業を始動しました。練馬区むし歯半減運動(昭和30年)・本会代表的事業である小・中学校校長との研修懇談会(昭和37年)・よい子のバッチ配布制度(昭和41年)などの主要年間事業を促進し、練馬区学校保健大会(昭和57年)にも積極的に協力を行い、全国大会等にも参加し、研究発表をも成し遂げ、行政との連携を堅持し児童・生徒の歯と口の健康水準を引き上げ、尽力を注いでまいりました。

また対外的には、日本学校歯科医会の会長職に関口龍夫先生・西連寺愛憲先生・中田郁平先生の方々が就かれ、全国的見地から多くの事業が先輩諸氏のご尽力により順調に推移されております。新執行部は、従前の執行指針を支軸にこれら多くの業務を円滑に推進し、尚且つ何事も慣例に囚われず、改善すべきことは改善をし、正路第一に遂行してゆきたいと考えております。蛇足ではございますが平成28年度は、新たな事業としてHP委員会を設置し、4月からHPを立ち上げスタートしたいと計画しております。

本執行部は、会員の多くの声に耳を傾け、先生方と風通しの良い環境を整え、行政・学校関係者・練馬区歯科医師会・練馬区歯科医師連盟・各大学同窓会との良好な連携を図って行きたいと懇願しておりますので、ご指導・ご鞭撻の程お願い申し上げます。

前川耀男練馬区長 表敬訪問

平成27年8月5日(水)午後3時に草柳英二練馬区学校歯科医師会会長・金田和彦副会長・河奈文彦副会長・箭本治専務理事は、前川耀男練馬区長を区役所本庁舎5階区長室に表敬訪問致しました。

今回は、河口浩教育長のご尽力で実現したもので、河口教育長・岩田高幸教育振興部参事同席のもと、前川区長に練馬区学校歯科医会のあゆみ、構成、事業内容、練馬区歯科医師会との関係等について草柳会長より説明を申し上げました。

前川区長は、練馬区学校歯科医会の存在を認識されたようで、練馬区内の児童・生徒の為にこれからも頑張ってもらいたい旨を仰られ、予定された時間内では終始和やかに歓談が進みました。

定刻を過ぎ退室しようとしたら、前川区長より「一緒に写真を撮りましょう」と仰って下さり、記念すべき練馬区学校歯科医会最初の練馬区長表敬訪問の写真撮影が実現し、おいとまして参りました。これも練馬区学校歯科医会の先輩諸先生方、特に西連寺愛憲名誉会長はじめ歴代の会長方々の経年的なご尽力で練馬区教育委員会との良好な連携関係を築いてきた賜物だと感じとれました。

河奈文彦



前川区長 表敬訪問

特別支援学級におけるアンケート調査の報告 ～お口の健康と食習慣について～

練馬区学校歯科医会学術委員会

西 克昌 ○西村 滋美 生田 剛史
瓦井 徹 石塚 亨 宮本 一世

1. はじめに

特別な支援を要する児童生徒にとって、歯と口の健康づくりは、生涯にわたる身体全体の健康づくりの基礎として重要な意味をもっている。

今回、練馬区学校歯科医会学術委員会は、歯・口の健康維持や食育に関して、特に早い時期から支援が必要とされる特別支援学級の児童生徒の現況を把握し、今後の指導・教育の充実に役立てるため、区立小・中学校の特別支援学級の児童生徒の保護者に対してアンケート調査を行ったので報告する。



2. アンケート結果および考察

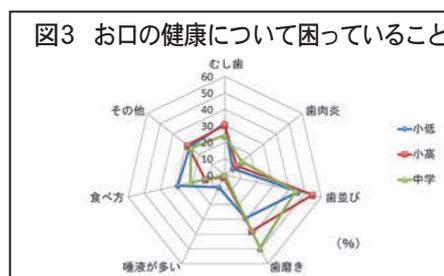
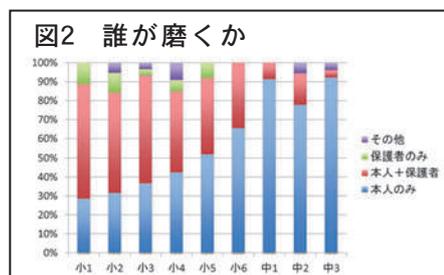
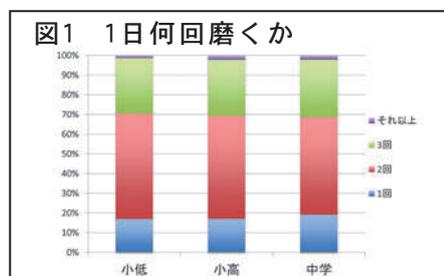
練馬区内の特別支援学級設置校、小学校16校、中学校8校の児童生徒478名にアンケートを配布し、244名から回答を得た(回答率51.0%)。なお、小学校は1～3年を低学年、4～6年を高学年に分けて集計を行った。

1) 歯磨き状況について

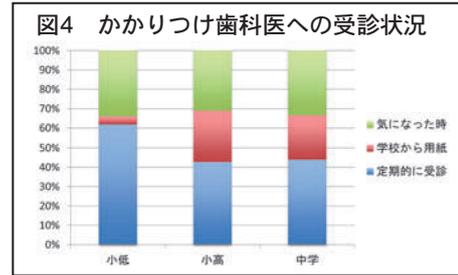
歯磨きは、1日2回磨く児童生徒が多く(図1)、また、朝夜に磨くことが多いという結果より日々の歯磨き習慣が獲得されていると思われた。学年があがるにつれて本人のみで磨く割合が多くなっていった(図2)。

昼は給食後の歯磨きを推奨している学校もあるため今後もより定着していくことが望ましいと思われた。また、うがいができない児童生徒もわずかだがいたことから今後は口唇閉鎖のチェックも必要と思われた。

お口の健康について困っていることがあるという回答は72%あり、小学校低学年では歯並び、むし歯、食べ方の順に多く、高学年では歯並び、歯磨き、食べ方、中学生では歯磨き、歯並び、むし歯、食べ方の順に多い結果となった(図3)。



また、ほとんどの児童生徒にかかりつけ歯科医がいたが、定期的に通っている児童生徒は小学校低学年では多く、高学年、中学生においては学校歯科健診で治療勧告を受けた時と何か気になることがあったときに受診する傾向がみられた(図4)。

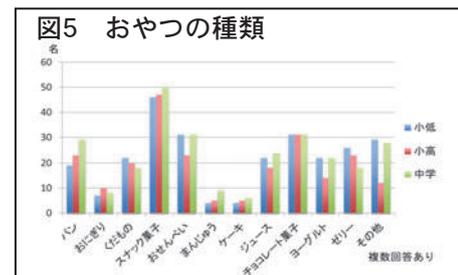


乳歯列のうちから定期的に口腔管理を行っていくことは、成人期に向けてのむし歯抑制にも有効となるため、継続して定期的に歯科に通院することが望ましいと思われた。

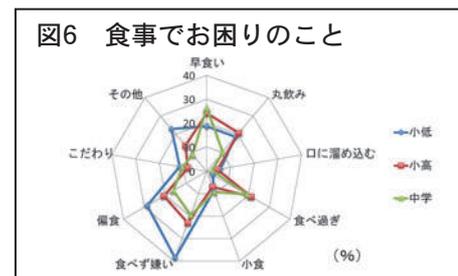
2) 食生活について

起床時間は全体的に7時前に起床する児童生徒の割合が多く、就寝時間は小学生のほとんどが22時前までに就寝し、中学生になると23時以降の割合が増えていた。朝食はほとんどの児童生徒が摂取していた。このことより、“早寝、早起き、朝ごはん”という食育の観点からは、ほぼ生活リズムは安定している児童生徒が多い結果となった。

帰宅後におやつを摂取している児童生徒の割合は多く、お菓子類の摂取が増えているため、むし歯や歯周疾患の予防のため間食指導も必要と思われた(図5)。



夕食を保護者と一緒に食べない児童生徒の割合は少なかったが、食事で困っていることで、早食い、丸飲み、食べず嫌い等の回答があった(図6)。



これらは窒息を招きやすい食べ方のため、家庭での食事のみならず、学校での給食の時も介助者の見守りや援助が必要で、状況によってはできるだけ小学校低学年から食事指導等を行うことの必要性が示唆された。

3. まとめ

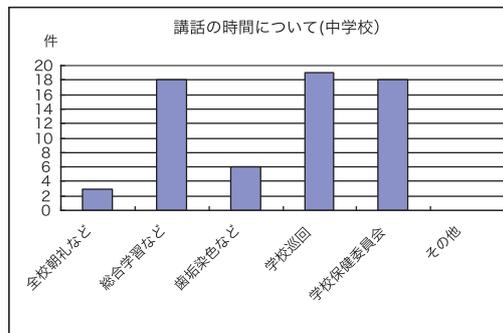
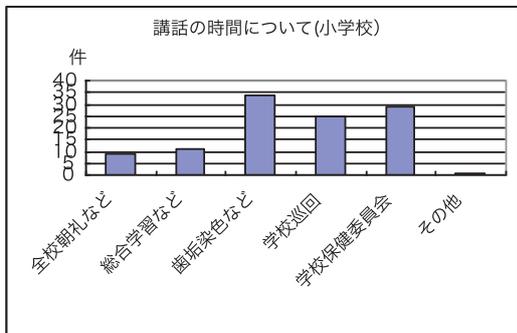
以上のことから特別な支援を要する児童生徒の歯科保健指導に際しては、児童・生徒本人、保護者、担任、養護教諭、学校歯科医、かかりつけ歯科医が連携をとりながら行われていくことが望ましいと思われた。

『歯科講話についてのアンケート調査結果』

集計数：小学校：55校、中学校：35校、高校：3校、特別支援学校：1校

練馬区学校歯科医会学術担当理事 南 誠二 ○郷家英二
 学術委員会 西 克昌 西村滋美 生田剛史
 瓦井 徹 石塚 亨 宮本一世

1) 講話の時間について



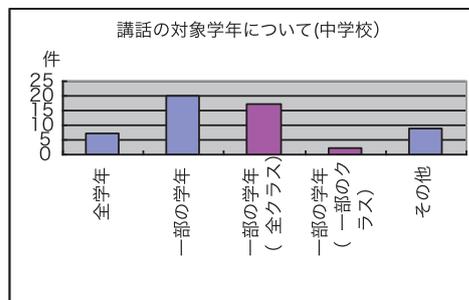
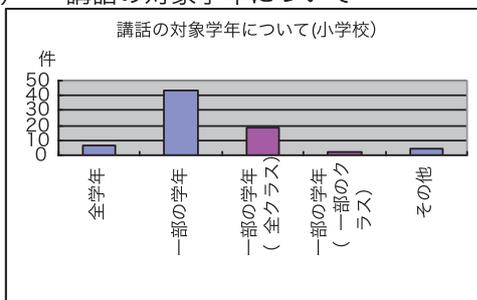
* その他：以前行ったことがある(小学校)

- 全校朝礼などの時間では、小・中学校とも15分以内が多かった。
- 総合学習などの時間では、小学校では45分、中学校では30分が多かった。
- 歯垢染色などの時間では、小学校では15分、中学校では5分以内が多かった。
- 学校巡回指導の時では、小・中学校とも5分以内が多かった。
- 学校保健委員会などの時間では、小学校は5分以内、中学校では15分が多かった。
- 高校では、その他で1校(ライオン歯科衛生研究所歯科衛生士と一緒に)。
- 特別支援学校では、総合学習など(50分)1校であった。



学術担当理事 郷家英二

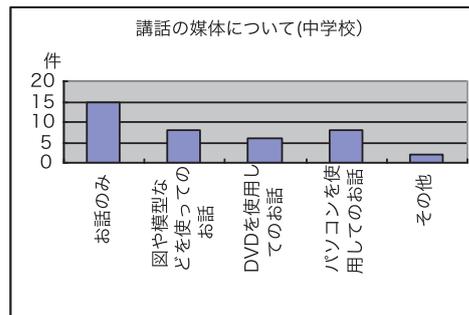
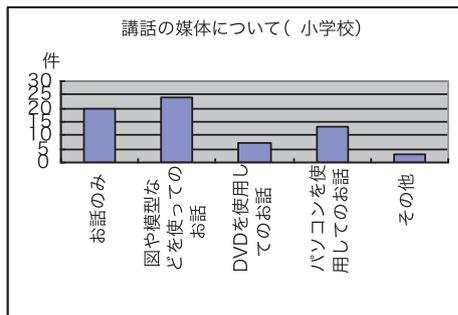
2) 講話の対象学年について



* その他：教員や保護者など(小・中)、支援学級(中学校)

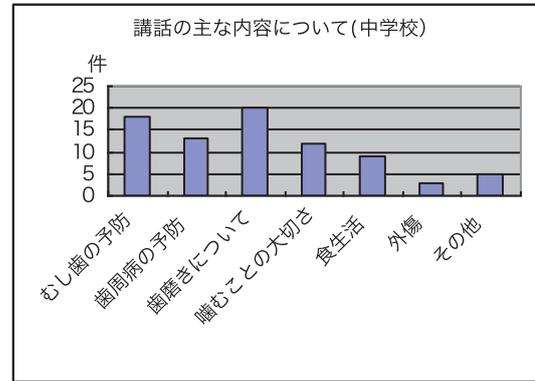
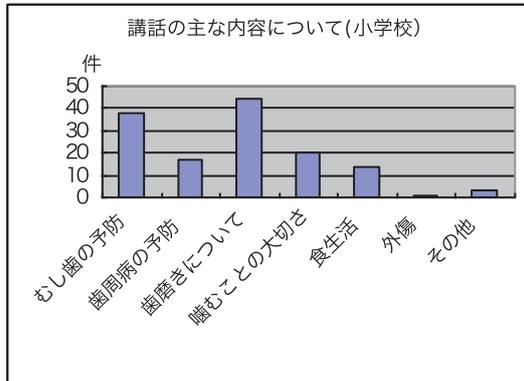
- 一部の学年では、全クラス対象および一部のクラス対象とも小学校では4年生が中学校では1年生が多かった。
- また、高校では一部の学年(一部のクラス)1校、1年生で、特別支援学校では一部の学年(全クラス)1校、小1・小4・中1・中3であった。

3) 講話の媒体について



- * その他：顕微鏡・二次元マップを用いた健康教育(小学校)、プリント(小・中)
- 高校では、図や模型などが1校
- 特別支援学校では図や模型・パネルシアターの使用が1校であった。

4) ここ最近の講話の主な内容について



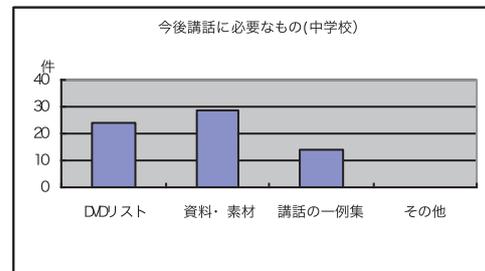
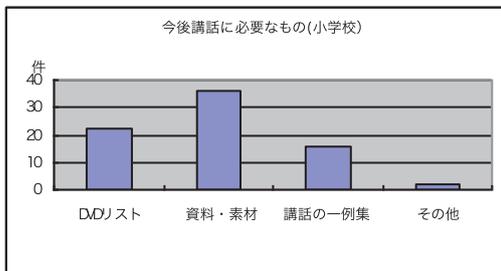
* その他

小学校：口呼吸の害について、動物と人間の歯の違い

中学校：歯の成長について、生活習慣とう蝕、他臓器への影響について、検診の重要性、治療勧告書の回収率について、支援学級に対して歯磨きの方法

- 高校：むし歯の予防 1校
- 特別支援学校：a～fの全項目、人工甘味料やキシリトールなどのお話 1校

5) 今後歯科講話を行うにあたりどのようなものが必要ですか



* その他：講話時間の確保(小学校)

- 高校：講話の一例集 1校、その他(今後「保健だより」で、文章で歯科保健の啓蒙したい) 1校
10年前に講話を行ったことがある。1校
一度も講話をしたことがありません。2校
- 特別支援学校：資料・素材、講話一例集 1校

<講話をしていない校数>

小学校：4校(新任2校)
中学校：7校(新任4校)



以上のアンケート調査結果をもとに、今後学術委員会では先生方の歯科講話のお役に立てる資料作りを検討してまいります。ご協力ありがとうございました。

練馬区学校歯科医会学術委員会

第79回 全国学校歯科保健研究大会

都立田柄高等学校歯科医 水野 重美

今年の大会は10月29日、30日の二日間にわたり長野市のホクト文化ホールにて行われました。長野市といえば善光寺。善光寺側の駅前には多くの店が軒を並べ賑やかで独特な門前町を呈しています。会場のある側は新しく開発された地域で、立派な県立図書館やテレビ信州、朝日長野放送などの放送局などが会場までの道筋にあり、会場の文化ホールの前には広大な公園がひろがり丁度時期的に木々の紅葉が見ごろでした。静かな環境のなかで有意義な二日間を過ごしました。

一日目は例年通り大会の開会宣言から始まり来賓の挨拶、祝辞。全日本学校歯科保健優良校の表彰が行われました。

基調講演の演者は国立モンゴル医科大学 歯学部客員教授岡崎好秀先生でした。相変わらず多くの人の興味を引き付ける軽妙で内容のある講演でした。現在乳歯の虫歯は地域や家庭での虫歯予防に対する関心が高まって激減しているそうです。しかし重症の虫歯がある子供もみられ、そのような子供は体格が小さい子供が多いということでした。幼稚園や小学校の健診時に注意してみると分かるということでした。また、早食い傾向もあるので肥満度の高い子もいるということでした。食生活の変化によって乳歯の不正咬合、口呼吸、唾液分泌量の減少、発音不明瞭、歯周病の若年化と新たな小児の口腔に関する問題がみられるようになってきたそうです。食育に関する資料は多いが、多くは『口に入る前の食育』のもので栄養学的なものであり、これからは『口に入った後の食育』が重要だということでした。

歯は獲物を捕らえ、それを砕きよく噛み、消化効率を高めるためにあり、だからこそ『食育の基本は歯・口の健康づくりから』と強調して講演を終えられました。食事の仕方・食べ方これらを踏まえて児童や親へのアプローチの仕方考えた方が良いと思います。

基調講演に続き『生涯を通じて自らの健康を保持増進するための学校歯科保健のあり方』をテーマにシンポジウムが行われました。



大会出席の先生方

各学校では保健委員会を活用して健康の保持増進するための色々な企画を発案実行し、かなりの成果をあげているという発表が多く聞かれました。

各教諭の情熱とそれにPTAの協力。地域全体での歯・口の健康づくりへの願いが良い結果を生んでいるように思えます。今回、学校保健委員会という言葉が多く聞かれました。また、規模の大きい学校で同じような事が可能かどうか少し疑問にも思いました。

二日目。領域別研究協議会が行われました。高等学校部会に参加しました。

地域連携型健康教育を指向した保健委員会活動というテーマで歌って踊れる長野県立望月高等学校 養護教諭 小森江利子先生の研究発表が最初でした。

地域連携型健康教育とは1) 地域住民や、地域で活躍する専門職とのふれ合いを通じて、生徒が育つ、2) 望月高校生の持ち味の良さを認識して頂き、地域から愛され、必要とされる学校になる。という事で学生達が色々な職種の人に取材をし健康課題に対応した内容を発表したり、得た知識を劇などにして地域の幼稚園などで上演したりして健康に関しての事柄を地域に啓蒙して貢献しているそうです。学生さんを指導できるのは養護の先生のキャラが良いからのように思えます。

学生目線で楽しく接しているように思えました。

2番目の研究発表は都立足立東高等学校 主幹教諭の西川路 由紀子先生でした。

生活習慣病予防を目指した歯と口の健康づくりというテーマでした。平成15年からエンカレッジスクールとしてスタートした学校で一種独特の教育をしていたそうです。生徒は落ち着かず、生活指導が連日続き、授業を成立させることが困難な学校だったそうです。歯も磨かず食習慣も無茶苦茶だったそうです。

それから12年間。色々大変な苦勞と工夫を根気よく続けられて今では学生さんの健康意識も変化して、生活習慣も改善され、学校自体も落ち着いてきたとのことでした。600人近くの学生がいるマンモス校でこのような成果を上げられた先生方の努力と飽きない情熱に敬意を払います。私も高校の学校歯科医をやっていますが、けっこう口腔ケアが悪い学生が多いように思われます。社会に出る前の最後の健康教育の場で行動を起こさなければいけないと思わせる素晴らしい発表でした。

いつも思うのですが各学校の先生方の熱意が学生、生徒たちに自然に伝わり良い成果がでてるように思います。有意義な二日間でした。

第66回関東甲信越静学校保健大会に参加して

富士見台小学校歯科医 蓮池 敏明

去る平成27年8月27日に、静岡県コンベンションセンターおよびホテルセンチュリー静岡において第66回関東甲信越静学校保健大会と同歯科職域部会が開催されました。練馬区学校歯科医会からは草柳会長以下金田先生、小杉先生、名古屋先生、水野先生と私の6名で参加しました。東京都からは学校歯科医の他、学校医、教諭等、100余名が参加されたとのことです。

当日は東京駅に集合でしたが、生憎恵比寿駅近くで起こったケーブル火災(後に犯罪と判明)のためJR山手線が運休し、各自振替輸送等で苦労して新幹線に乗り込みました。

学校保健大会の班別研究協議題は第4班 学校歯科保健「生活習慣病の予防等を目指した歯・口の健康づくり」であり、歯科職域部会の講演は、I「学校歯科医の立場から食育を考える」モンゴル健康科学大学歯学部 客員教授 岡崎好秀先生、II「中学校における食育推進の実際」沼津市立長井崎中学校 学校歯科医 桑原聡先生／沼津市立大平中学校 養護教諭 山田忍先生でした。

学校歯科保健と学校保健は密接な関係があると考えます。また近年小学生のDMF歯数の減少は目覚ましいものがあり、医科／歯科の有病率が近づいていますが、就学期を通した罹患率を考えると継続的な歯科健診は有効と考えられます。

学校歯科医はこれからも現代性を踏まえて活動が求められていくと痛感した出張でした。



第66回関東甲信越静大会 講演会



参加の先生方

平成27年度 練馬区立小学校長・中学校長との研修協議会

練馬区立小学校長・中学校長との研修協議会が、本年も9月17日及び10月15日に練馬区歯科医師会館で開催されました。練馬区教育委員会方々と各小学校長・中学校長及び各学校歯科医の研修会及び懇親会は、三者間の見識と親睦と信頼の連携を高めるための年に一度の良い機会です。

今回も私たちは、小学校長との研修協議会の講演は、森岡俊介先生の「子供の虐待における歯科の役割」の演題で、歯科医師の立場から児童・生徒のネグレクトおよび虐待を防止すべき観点や、むし歯は減ったが治療されていないむし歯の現状や諸状況の把握等の説明を受け、学校現場では校長先生・養護教諭に連絡を行い、各診療所では189番への通報をするとの指導を受けました。

また、10月15日での中学校長との研修協議会は郷家英二学術担当理事が「かむことの大切さ・生涯おいしく食べるために」を講演し「歯丈夫、胃丈夫、大丈夫」等の標語を使って歯科の大切さを話されました。

これらの研修会は本会の一大事業であり、学校歯科健康診断における今後の検討課題などを小・中学校長先生との対話を得られる有意義なひと時を過ごす事のできる大切な研修協議会です。

名古屋昌宏 草柳英二



練馬区学校歯科医会会長 草柳英二先生



教育委員会教育振興部参事 岩田 高幸様



乾杯の挨拶 清水 徹先生



懇談中の先生方



懇談中の先生方



閉会の挨拶 河奈文彦副会長

学校歯科医に就任して

練馬区立光が丘夏の雲小学校 本田美知子

保育園の園医を始めてから3年が過ぎた今年、諸事情により急遽小学校の校医をすることになりました。

小規模のほぼ乳児だけの保育園から、五百人を超える、しかも年齢層も幅広い小学生を受け持つことになり、最初はととてもとまどいを覚えました。

初めて小学校を訪れた時、校庭の土の匂い校舎の中の本の匂い、給食室からの調理の匂いなど、とても懐かしい香りに身体が包まれ一瞬立ち止まり、記憶の中の小学校をたどってしまいました。



最初の仕事は3年生への歯磨き指導。担任の先生や養護の先生の指示をきちんと聞く子、ちょっとどこかへ歩き出してしまう子、色々な生徒に少しびっくりしてしまいましたが、歯ブラシを持たせると、全員が一生懸命歯磨きを始めていました。どの子も真剣な顔です。磨き終わると友達の歯をのぞき込み、得意げな顔つきに変わっていきました。

自分が小学生の頃には、この様な歯科教育などありませんでした。子供の頃から歯磨きの大切さ、噛むことの大事さを覚えてもらえば、自分の歯で一生食べることができるようになるでしょう。

その小さな手助けができる仕事に携われる事に、今はとても喜びを感じております。

小学生の校医は結構仕事も多く、初めての内容も結構ありますが、なるべくわかりやすく、色々な事を子供たちに理解してもらえよう、頑張って努力していきたいと思っております。

学校歯科医に就任して

練馬区立八坂小学校 松本 大輔

平成27年度より八坂小学校を担当することになりました松本大輔です。前年度までは保育園の嘱託医をしていましたので、春の歯科健診では対象人数が大幅に増え、健診時間が押してしまいました。今後は子供達に迷惑のかからないように、工夫していきたいと思えます。

また、齲蝕は年々減少しているようですが、前年から歯科医院に行った形跡がなくカリエスが進行してしまっている児童が数人見受けられました。齲蝕が進行する前に、養護の先生と協力して受診してもらえようように努力したいと思います。

また、児童の齲蝕予防は家庭での保護者による仕上げ磨きと生活習慣、歯科医院での定期的な管理が必要と考えますので、保護者に外傷の予防も含めて発信できればと考えています。歯科大学卒業後、大学院を含め14年間母校の小児歯科学講座に在籍し、研鑽に努めてまいりましたが、今後も学校歯科医研修会等にも積極的に参加して、児童の健康増進に少しでも寄与できるように努力してまいりますので、ご指導の程宜しくお願い致します。

学校歯科医になって

練馬区立北大泉幼稚園 安田 智恵子

平成26年度より北大泉幼稚園医に就任致しました安田智恵子と申します。

お話をいただきました時には、学校歯科についてほとんど何も知らず、少し戸惑いましたが、保育園医を努めていたので、同学齢の子供たちということでお引き受けさせていただきました。

就学前のこの時期は永久歯への交換期に差し掛かる大切な時期です。けれども、まだ子供だけの力ではままならない時期でもあります。園児達への指導は基より、保護者、教職員の方々の協力は必須ですので、出来る限りの連携に努めながら口腔の健康維持増進を図っていきたくと思います。そして、将来も子供達が健康な歯で過ごせるよう少しでも役に立つことができればと思っています。

練馬区立北大泉幼稚園は今年で40周年を迎えました。その園児達の歯科保健活動に、40年近く御尽力して来られた前任の佐牟田和康先生には及ばずとも、私なりに精一杯努めていきたくと思いますので、どうかよろしくお願い致します。



母校の学校歯科医に就任して

練馬区立豊玉南小学校 阪本 栄一

平成27年4月練馬区学校歯科医会より豊玉南小学校の学校歯科医を拝命されました。豊玉南小学校は、私の母校であり学校創立時に1年生として入学し6年間過ごした小学校でもあります。また、私の子供、現在では孫達が通学している親子3代にわたり御世話になっている学校でもあります。卒業してから50年経ち校舎も新築され最新の設備の整った学校に歯科健診に行ったとき、卒業式で歌われる“揚げば尊し”の第2章の一節“身を立て 名をあげ やよ励めよ”の歌詞を思い出し、この年になって母校に凱旋したような誇らしげな気分でした。

保育園医としての健診の経験(3時間以内に80人程度)がありましたが、同じ時間内で3学年分を行うと言われた時は、昼の給食までに終了するか心配で、先ほどのセンチメンタルな気持ちは何処かに吹っ飛んでしまいました。校長先生、養護教諭の先生に協力していただき当日の健診を無事終了することができほっとしました。

健診で気がついた事は、最近の小学生は虫歯がほとんど無く、矯正治療をしている子供たちが多く、私が小学生の頃(味噌っ歯)とは一変していた事に驚きました。この50年間の親子子供達に対する歯科界、特に学校歯科での虫歯に対する啓蒙運動のたまものと思いました。

子供達の健康は、“食にあり”すなわち歯・顎の正常な口腔機能にあると考えこれからも学校と連携を密にして、子供達の健康管理に努めたいと思います。

学校歯科医になって

練馬区立石神井西中学校 羅 均

1988年に上石神井に開院し練馬区歯科医師会に入会した羅と申します、定年により退任なされた田中志郎先生の後、本年4月より石神井西中学校の学校歯科医に就任し皆様のお仲間に加えて頂きました。2010年に上石神井第三保育園の園医に就任してから5年、小学生を飛ばして乳幼児から中学生へと検診対象も変わりました。5年前、保育園医になって感じたのは処置歯・未処置歯ともに想像していたよりも少なく、保健所・相談所に於ける検診時の指導の効果がしっかり出ていることと、口腔清掃状態も悪くないことでした。

中学生の検診は昔、勤務医の時代にも何度か行った事があるのですが、本年6月、初めて石神井西中の集団検診を行って(今回、私は男子しか見ていないのですが)、意外に口腔清掃状態が良くなく、親御さんの管理の手が行き届かない年齢になると、やはり変わってしまうのかなと感じております。

また、昔よりも体の成長は早くなっていると考えられているのですが、乳歯の晩期残存が散見され、同時に歯列不正も予想よりも多く、この点を不思議に感じております。しかし近年、食育の重要性が認識されつつあり、将来には先の不思議も良い方向へ変化するのではないのでしょうか。

また、学校歯科医会に入ってから知ることができたのは、練馬区学校歯科医師会には練馬区歯科医師会と同じように多くの業務・事業が有り、そこにまた多くの会員の先生方の努力が注がれているという事です、微力ですが私もお役にたてればと思っております。

どうぞ宜しくお願いします。

学校歯科医になって

練馬区立大泉学園中学校 安藤 泰敬

この度練馬区立大泉学園中学校の校医を担当させて頂く事になりました。まだまだ何もわかりませんが先生方のご指導をよろしくお願いいたします。

大泉学園中の校長先生をはじめ先生方の歯や健康に対する熱心さを身近で感じるにあたり私も生徒達の歯の健康をしっかりと守っていかなければいけないという思いであります。つい先日も学校保健医会に出席いたしましたが、校医の先生方や薬剤師さん並びに栄養士さんからも貴重なご意見を聞き大変勉強になりました。

今後とも学校医としまして貢献できるようがんばりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

学校歯科医に就任して

練馬区立石神井中学校 宮本 一世

大川内哲雄先生が退任されたあとを受け、平成27年度より練馬区立石神井中学校の学校歯科医を務めることになりました。よろしくお願い致します。

石神井中学校は生徒数が区内で2番目に多く、特別支援学級を併せて19クラスあります。初めての春の健診では、まずは学校生活に支障をきたさないように予定時間内に行うこと、できる限り一定の基準で判断することを意識して臨みました。多少戸惑うことはありましたが、養護担当の先生や歯科衛生士の方々、協力してくださった先生方のおかげで無事に行うことができました。また、生徒たちは予想以上に行儀がよく協力的で、口腔内の状況も良かったことも幸いでした。最後は、集中力が途切れそうになり、また声が枯れてしまっていました。今後、少しずつ経験を積み重ねることで、診断の精度、スピードを向上させていきたいと考えております。

また、特別支援学級の健診では、どうしてもお口を見せてくれない生徒が1名おりました。何度か先生と一緒に入退室を繰り返し、ようやく最後に診査を行うことができました。こうした経験がこれまであまりなく、なかなか自分だけで対応するのは難しい面もありますが、これから勉強しながら経験を積んでいければと思います。

将来ある生徒たちの口腔の健康管理、育成に関わる学校歯科医という任務はとても責任が大きく、また学校の組織、環境への理解も深めていく必要があると感じます。私なりに、少しでも力になれるよう取り組んでまいります。何卒、よろしくお願い申し上げます。



向山小学校の学校歯科医に就任して

練馬区立向山小学校 結城 洋仁

師走の頃になると今年の重大ニュースが放映される。今年は何ととってもパリのテロ事件がダントツだ。また中東シリア難民の欧州流入の様子も多く報じられた。中でも世の人の多くが涙を流し胸を痛めたのは難民ボートが転覆し幼い男の子の亡骸が浜に打ち上げられている写真だった。子供は国や時代を選んで生まれてくることは出来ない。子供の健康や命は大人や社会が守らねばならないと痛感させられる。

今年度から西連寺先生の後を継いで伝統ある向山小学校の学校歯科医を拝命された。前年度まで光が丘第5保育園の保育園歯科医として5年間務めさせていただいた。講話の際には紙芝居や手品をしたり楽器やアンプを持ち込んで一緒に合奏したりと楽しい思い出ばかりだ。

学校歯科保健活動にはこれら保健活動、保健教育に加え学校歯科保健委員会などの組織活動にも務めることを求められる。身体も精神的にも、そして環境もダイナミックに変化する年頃の子供達の健康を守る職に任じられた機会を与えられたことに感謝いたします。

気持ちを引き締めて務めてまいりますのでどうぞ御指導よろしくお願い致します。

学校医に就任して

練馬区立大泉第二中学校 安齋 ちあき

平成27年度より、大泉第二中学校の学校歯科医を拝命致しました。

私が大学を卒業したばかりの昭和54年当時、私の父が大泉第二中学校の校医で、亡き尾崎周三先生が大泉中学校を、亡き田中サチ先生が大泉南小学校の校医をなさっており、この三人でチームを組んで、毎年の健診にあたっておりました。(今もこの形は続いています)私も手伝いと、一緒に健診にあたらせて頂いておりました。当時は生徒さんも1000名程おり、なかなかやんちゃな生徒さんも多く、保健の先生や補助の先生方の大きな注意の音が響き渡る中での、たいへんにぎやかな健診だったことをなつかしく思い出します。今年、久しぶりの中学生の健診となりましたが、今の生徒さん達は、とっても静かで、きちんとしていて、びっくりでした。

歯科医は、そろそろ卒業して……と思っていたのですが、もう一度、しっかり勉強して、今しばらく、地域の若い人達の口腔から始まる健康のために、少しでもお手伝いができるよう努力致したいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



学校歯科医に就任しました

練馬区立大泉北小学校 田中 俊三

平成26年の暮れ、それまで東大泉第三保育園歯科医を任されていた私の診療所に練学歯会長の望月先生から「来年の春から大泉北小学校の学校歯科医をやってみないか」と電話をいただき、どうして私が?と思いつつ少し考える時間をもらうことになりました。

私のようないい加減な人間が小学校の学校歯科医をやるなんて10年早いというのが本音でしたが、しばらくして望月先生から温かい励ましの言葉をいただいたこともあり自分を試すつもりでお引き受けしました。

(決して保育園歯科医がいい加減でもよいということではありません)

大泉北小学校では開校以来40年もの間、佐藤貞彦先生が続けてこられ、そのあとを任されるのはかなりのプレッシャーですし不安だらけでしたが、その佐藤先生とブロック会でお話する機会があり、「自分のやりたいようにやればいい」と言ってくださり僅かに肩の荷が下りたことが思い出されます。

さて小学校の学校歯科医になって歯科健診などを終えて少しばかり慣れてきましたが、自分が子供の頃は歯科健診の時に順番が近づいてくると緊張したことを懐かしく思います。今の子供たちもそうなのでしょうか?

私自身、乳歯から永久歯への生え変わりというダイナミックな口の成長など何一つ覚えていませんが、子供たちには自分の歯と口の健康を意識してこれまでの成長を振り返り、親や周りの人に感謝し、自分の体の健康、口の役割、食べることの大切さを考えてもらえたらいいなと思います。そのためには子供たちと触れ合う限られた時間の中でどうしたらよいのか考えていきたいと思っています。よろしく申し上げます。

学校歯科医に就任して

練馬区立谷原中学校 竹之内 大助

平成27年度より、谷原中学校の学校歯科医を担当させていただくことになりました。これまで中学生と関わることも少なく、今の中学生の口腔内の状況や発達段階がどうなのか把握できておらず、学校医に就任するにあたり不安なことが多々ありました。

しかし、校長先生や養護教諭の先生がとても熱心な方々で色々と協力していただけるので、手探りではありますがなんとか職務を行うことができております。

昨年行った健診で、歯肉炎を有する生徒がとても多いことに驚かされました。健康寿命を延ばすためにも、この時期から口腔に対する健康意識を高め、将来の歯周炎患者を減らすことが私の使命と考えております。

諸先生方のご指導をいただきながら頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

—— 編集後記 ——

草柳執行部としての「練学歯だより」第一号が皆様のお手元に届ける事が出来ました。会長はじめお忙し中、原稿を書いて頂いた先生方、校正を手伝って頂いた学術委員の先生方、本当に有難うございました。かどや印刷様には、度々の校正に応じて頂き大変感謝しています。小冊子を作るにも多数の人の手がかかっている事が、今回の件で良くわかりました。内容も今回より次号と、より向上する様、努めて行きたいと思っております。

名古屋昌宏

今回は新入会員の先生方、全員の原稿を掲載する事ができ安堵いたしました。次号は多方面にわたる取材原稿・写真等を増やしたいと考えております。また、先生方の寄稿をお待ち致しております。最後にこの度ご協力頂いたかどや印刷専務加藤吉孝さまに感謝申し上げます。

草柳 英二

発行日	平成28年3月9日
発行	練馬区学校歯科医会
〒176-0012	東京都練馬区豊玉北6丁目5-13
	TEL 3557-0045(代)
	FAX 3557-3553
発行人	草柳 英二
担当理事	名古屋昌宏
印刷所	有限会社 かどや印刷
〒177-0042	東京都練馬区下石神井5-1-37
	TEL 3997-0370
	FAX 3995-0594